



和光の緑と湧き水だより 会報 Verda 222号

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会は、白子大坂ふれあいの森の会と
協同で会報を発行します。 作成:高橋絹世 連絡先 048—462—9912

身近な自然を知り守り伝えよう **会員募集中**

ホームページ

<http://wako-wakimizu.org/>



2022年12月号

牧野富太郎博士が発見・命名された貴重植物「ヒロハアマナ」と和光について

現在の和光市新倉・谷中地区にはヒロハアマナの群生地があって、牧野富太郎博士主筆の植物研究雑誌の口絵に詳しく載っています。

千 月



郎太富野牧筆主

誌雑究研物植

號三第卷五第
(號九十三第卷通)

目 録

○日本植物新研究ノ發表(承前).....牧野富太郎 11

●歐文欄

植物新研究誌 ナンテムツカシイ名ヲウ、サレド其内容ハ歐文ヲ除イテ外ハソノツカシク
ナク主トシテ新種ヨリ小種中絶等學術程度ノヤサキ品目ヲ植物部等ヲ觀セルコトニシテ
居ル勢ヲハ大體程度ノ學ヲ學スル點ヲガナイデハナク知レシ、私ハ希望ハ成ベク種
物知識 普及ニガミ且植物部等ヲ鼓吹シタイデレガ今日此雑誌ノ主筆アル牧野富太郎

○「青花紙一覽」.....口繪

○しやうきらん.....口繪

○こもちした.....口繪

○しやうきらん.....口繪

○ひろはあまな.....口繪

○率直ニ述ベタ我が所感.....牧野富太郎 (87)

○あせたけニ就テ述ブ.....白井光太郎 (88)

○雷野獨語(其十九)(圖入).....朝比奈泰彦 (91)

○ひらたけトむきたけトハ別物ナリ(圖入).....川村清一 (94)

○製紙用ノ粘料植物(圖入).....刈米達夫 (98)

○いちやうノ短枝ヲそてつノ莖幹ト比較シテ(圖入).....向坂道治 (101)

○風鈴佛桑花ト大牛ノ舌ト智利あやめ(圖入).....松崎直枝 (104)

○日本ノ「フロラ」ニ一羊齒ヲ加フ(圖入).....緒方正資 (107)

○伯耆大山ノ自然生キヤらばく(圖入).....竹中要 (111)

○あかめがしは等ノ芽ノ色(圖入).....木村康一 (113)

○我等が敬愛セル梅村基太郎先生ノ事トモ(圖入).....吉川芳秋 (116)

○杜仲野繡線夜話(七)(圖入).....久内清孝 (122)

○斷枝片葉(其二十九).....牧野富太郎 (126)

東京 津村研究所出版部 發行

主筆 牧野富太郎 植物研究雑誌 第5巻 第3号 (通巻第三十九号)
口絵の⑤番目に「ひろはあまな」とあり、そのページには、
北足立郡新倉村で撮影されたヒロハアマナの群生地が紹介されています。

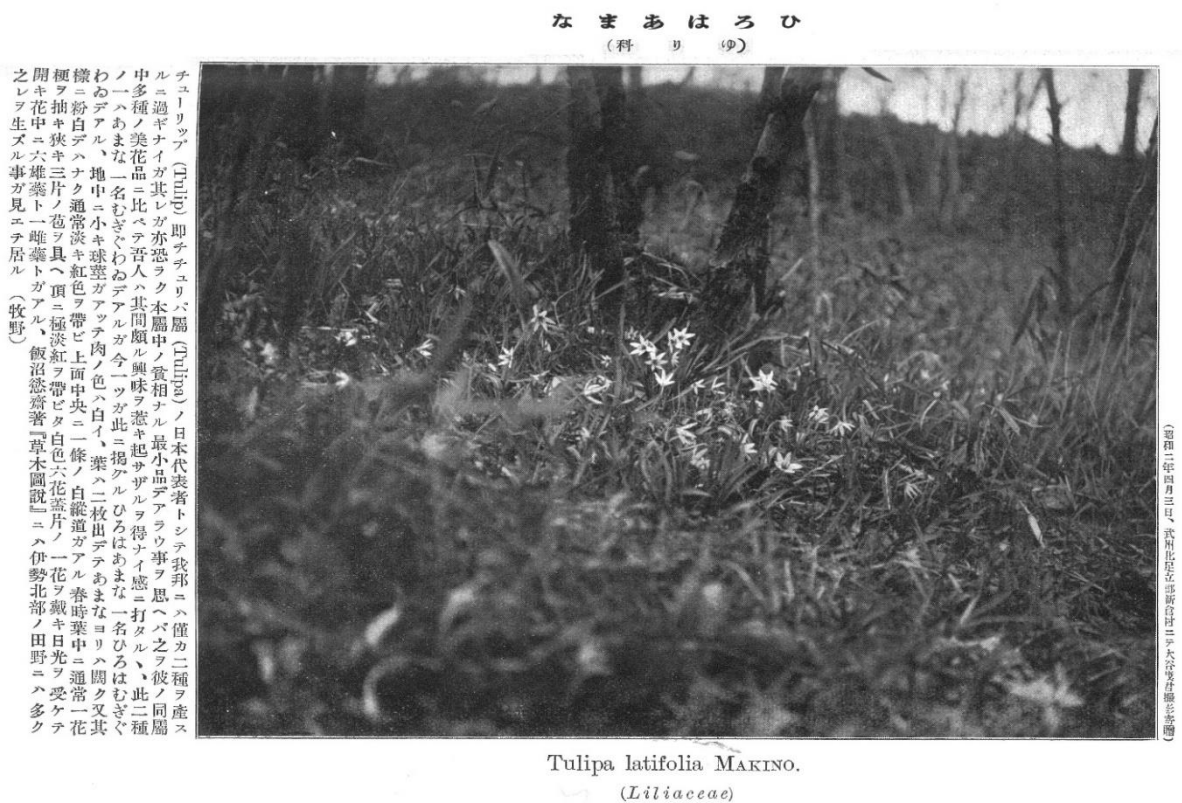
和光の植物の歴史とヒロハアマナ



日本固有種で、本州の関東地方から近畿地方、四国に分布し草地や疎林の下に生育する。植物学者牧野富太郎博士が発見、命名した。

牧野博士主筆の植物研究雑誌・第5巻第3号には、昭和2年4月3日、北足立郡新倉村にて撮影されたヒロハアマナ群落の写真が載っています。

「ヒロハアマナ」は牧野博士が注目した植物で、博士が住んでいた練馬の住居（現牧野記念庭園）からたびたび新倉の谷中地区を訪れ博士の主要な植物研究の地であったと言われています。



Tulipa latifolia MAKINO.
(Liliaceae)

牧野富太郎植物研修雑誌の表紙裏に写真と共に掲載された、ヒロハアマナ
(昭和2年4月3日 武州北足立郡新倉村にて)

1998年谷中地区画整理事業がはじまり、この地の開発前にヒロハアマナの球根を掘り出し、球根を集め、樹林公園や民家園、富澤湧水斜面上部などに移植し、絶滅から救出し、現在も保護、保全を続けています。現在ヒロハアマナは日本の絶滅危惧種に指定されているユリ科の春植物です。3月初旬、白い筋が入った2枚の葉の間に白い可憐な花を咲かせ、4月には実をつけ、落葉樹が葉を茂らせる季節には球根を残して地上から姿を消します。写真は1999年5月5日新倉の谷中から球根を掘り出しているところです。梅林だったところが梅の木は伐採されていました。自生地最後の写真です。



和光で著名な清水かつら氏の記録した特産植物の項に、「広葉あまな一明治 41 年中、理科大学教授牧野富太郎氏により発見せられ、本村（新倉村）特産にして日本中何れの地にも産せずという」との記述があります。牧野博士が清水かつら氏を案内したことが伺えます。和光の特産植物として、私たちもこれを引き継ぎ、1999 年に移植し、自生地を離れてもヒロハアマナの群落として保護してきています。



2018 年 3 月 11 日 樹林公園ヒロハアマナの森

樹林公園では、2021 年秋からメリケンカルガヤが大発生し、刈り取りが遅かったためヒロハアマナの森やその周辺に一齐に広がってしまい、メリケンカルガヤの根が広がり取り除けませんでした。今後ヒロハアマナの生育に影響が出るかもしれず、継続観察が必要です。



富澤湧水斜面上部のヒロハアマナ生育中 2022 年 3 月 12 日

クヌギの落ち葉から一齐にヒロハの葉が出て開花した状態で、生き生きとしていました。ここに根付いて広がりを見せてくれそうです。

あとがき

2023 年から牧野富太郎博士の生涯をドラマ化した「らんまん」が始まります。

和光市に隣接する大泉には、牧野博士の住まいがあり（牧野記念館）ます。和光市の新倉村谷中には、たびたび訪れ観察されていたようでした。

湧き水の会が、ヒロハアマナの情報を得たのは、丁度谷中地区の区画整理事業が始まる時でした。当時、埼玉県立自然史博物館学芸員をしておられた「太田和夫先生」から、牧野博士の植物研究雑誌の資料を戴き、知ることが出来ました。

時間が許す限り朝早く谷中に行ってヒロハアマナの球根を掘り出し、移植を試みました。ヒロハアマナの他に、ツルボ、キツネノカミソリなども多くありました。また、自生地には湧き水もあり、広々したなだらかな緩やかな斜面が谷中川まで続いていました。梅の木が多く植えられていたところの疎林地で、日当たりは比較的良い所でした。柔らかくさらさらした黒色の土と一緒に持ってきました。その土は野草に適した土で、見えなくらい小さな球根も入っていて、土そのものの貴重なことが伝わってきました。その後工事が進み、川沿いに 3m 以上のコンクリートのフェンスが建って、谷中川まで平らに土が盛り土されてしまった時、環境の維持がどんなに大切なものかを目の当たりに感じたものです。かつての土は永久に埋まってしまい元には戻せないものです。ヒロハアマナに関して、生育環境が変わってしまいましたが、その後環境変化に耐え、生育中は踏圧を避けて保護した結果、徐々に増えてきています。ヒロハアマナの球根や生育の様子を写真に収めて観察を続けています。写真は 1999 年 7 月の様子です。徐々に建物が建ち和光が発展している中で生育を続けています。



富澤湧水斜面上部での保全活動でヒロハアマナを守る